

サカイシロテンハナムグリについて

前回(第4回)専門家グループ会合において問題提起された在来種オキナワシロテンハナムグリ *P. ishigakiana okinawana* との交雑を起していると考えられるサカイシロテンハナムグリについて、これまでの知見をまとめた。

1. 分類・分布

・コウチュウ(鞘翅)目コガネムシ科ハナムグリ亜科

Protaetia orientalis sakaii サカイシロテンハナムグリ

・台湾原産で、沖縄諸島、宮古諸島、石垣島、大東島等に侵入定着している。

・国外ではグアム、サイパンに侵入している。

種 *Protaetia orientalis* としては他に、

P. orientalis submarumorea シロテンハナムグリ(本州～口永良部島)

P. orientalis tokarana トカラシロテンハナムグリ(トカラ)

の2亜種が日本に在来として分布する。奄美諸島以南には従来、本種は生息していなかった。

2. 沖縄島における生息実態

・1976年頃、台湾より非意図的に侵入したとされる。

・現在、生息地域の広さ、個体数において、在来の4種のハナムグリ(オオシマアオハナムグリ、リュウキュウツヤハナムグリ、リュウキュウオオハナムグリ、オキナワシロテンハナムグリ)をしのぐ優占種となっており、特に平地や都市周辺部において個体数が多い。このことから見て、在来種との競合が起っていることが推察される。

・5月～12月の間、活動している個体が見られ、在来のどの種よりも活動期間が長い。

・平地で開発の進んでいる地域では、オキナワシロテンハナムグリ(以下オキナワ)の減少が進行している。

3. 在来種との交雑について

・2004年に沖縄島南部で、大きさや色・斑紋、♂交尾器を含む形質が、サカイシロテンハナムグリ(以下サカイ)とオキナワの中間的な個体が複数発見され、形態学的に詳細な検討をおこなったところ、両者の交雑に基づく個体であると結論づけられた。

・オキナワの交尾習性としてオスが群飛を行なうことが挙げられるが、その群飛が見られなくなっている地域で、交雑個体が見つかった。このため、交雑個体は残されたメス個体とサカイのオスが交尾した結果である可能性が高い。

・沖縄島以外の島にもオキナワと同種の別亜種が生息しているが、今のところ交雑に基づくものと考えられる個体は発見されていない。

・沖縄の在来の特種リュウキュウオオハナムグリとサカイが交雑している可能性も指摘されている。

4. まとめ

・サカイシロテンハナムグリと在来のおきなわシロテンハナムグリについて、交雑が起きているらしい証拠が見つかったが、より詳細な交雑実験や遺伝子解析による確認とより詳細な実態把握が必要である。

・今後、沖縄島の状況を追跡するとともに、他の島での本種の動向に注意することが重要である。

・ハナムグリの異種間交雑については、これまでほとんど注意を向けてこられなかったが、今後は予防的な観点からも留意する必要がある。

参考文献

楠井善久 (2005) 沖縄のシロテンハナムグリ属における固有種と外来種の種間交雑について. 日本動物学会九州支部 (第 58 回)・日本植物学会九州支部 (第 55 回)・日本生態学会九州地区 (第 50 回)・沖縄生物学会 (第 42 回) 合同沖縄大会プログラム・講演要旨集 2005. P.42.

野林千枝 (2004) 沖縄島産シロテンハナムグリの変異. 鰐角通信 (8) : 15-20.

酒井香・永井信二 (1998) 世界のハナムグリ大図鑑. 421pp. 月刊むし.